

新婚期における夫婦関係の形成過程についての研究

The process of forming the conjugal relationship in newlywed days

【目的】

日本における離婚は結婚20年以上の熟年離婚が目立っているものの、5年以内の若年離婚が離婚全体の32.9%と依然として多い割合を占めている(厚生労働省大臣官房統計情報部, 2010)。このような現状があるものの、新婚期の関係形成の様相についての研究は我が国ではほとんどみられない。よって本研究は新婚期の夫婦がどのように夫婦関係を形成していくかのプロセスを明らかにし、新婚期の夫婦に関わる専門家が円滑に支援を進めるための一助となることを目的とする。

【方法】

対象 夫婦5組計10名(平均年齢 夫37.8歳, 妻36.2歳, SD 夫12.1, 妻11.8, 結婚年数 平均11年, SD 11.3)。

データ収集方法 縁故法にて収集し, 2012年9月~2013年1月に, 対象夫婦1組につき1回の半構造化面接を行った。面接内容は, 結婚直後に感じていたことや, 結婚後に戸惑ったことなど計9項目である。面接は1回あたり, 60分~90分程度とした。

分析方法 修正版グラウンデッドセオリアプローチ(Modified Grounded Theory Approach, 以下「M-GTA」とする)(木下, 2009)を用いて, 1組ずつ別々に分析を行った。分析過程において, 家族心理学の専門家にスーパーバイズを受け, 信頼性・妥当性を確認した。

倫理的配慮 協力者に研究概要, 本人の任意性の保障, データの機密性, プライバシーの保護, 同意後の拒否・撤回の保障, 録音の許可について文書と口頭にて説明し, 文書で同意を得た。

【結果と考察】

5組分の分析の結果の共通項目として16個の概念が得られた。以下カテゴリーは《 》, サブカテゴリーは〈 〉, 概念

は〔 〕内に示す。「新婚期における夫婦関係の形成過程」として《結婚式》, 《生活》, 《喧嘩》の3つのカテゴリーを抽出した。この3つの中で中核となるカテゴリーは《生活》と《喧嘩》である。サブカテゴリーとしては〈戸惑い〉と〈喧嘩の流れ〉を抽出した。これらの概念とカテゴリーから得られた結果図をもとに以下に示すストーリーラインが導かれた。また, 結果図の一部を以下に示す(Figure1)。

ストーリーライン 結婚生活が始まり, [妻は家事を頑張ろうとする]のだが, 妻と夫では育った環境が違うので, [夫は妻が料理した野菜の炒め加減に戸惑った]や[妻の衛生面へのルールの厳しさに戸惑った]や[夫の食べ物の好き嫌いの多さに戸惑った]など, 生活に密着した戸惑いが生じている。次第に[夫は家事の中で出来る部分はやる]ようになるが, しかし意識のうえでは[明確には家事の役割分担はしていない]という夫婦が多い。夫婦間に考え方や生活習慣の違いが生じた時, [妻が一方的に怒る]ため[夫は言いたいことを我慢し謝る]。そのため[喧嘩は長引くことなく収まる]ので, [友人や親に相談することはない]というような喧嘩の流れがある。しかし, 最終的には[お互いに譲歩する]という方法をとっている。

これらのことから夫婦が一緒に生活し始めて, まず問題になることは, 生活に密着したことであるということが明らかとなった。お互い異なる環境で育ってきた者同士が異なる生活習慣を持っているため, このような戸惑いが生じるのだと考えられる。そして, 生活習慣の違いや考え方の違いで夫婦が衝突した時に, 妻より夫が我慢し謝るということが多く, よって喧嘩が少なくすむということが明らかとなった。

また, 結婚直後のエピソードとして語られると予想される心理面に関する情報は, 今回の調査ではあまり得られなかった。このことから, 新婚期では心理面の充実よりも生活面に注意しやすくなるのではないかと推察された。

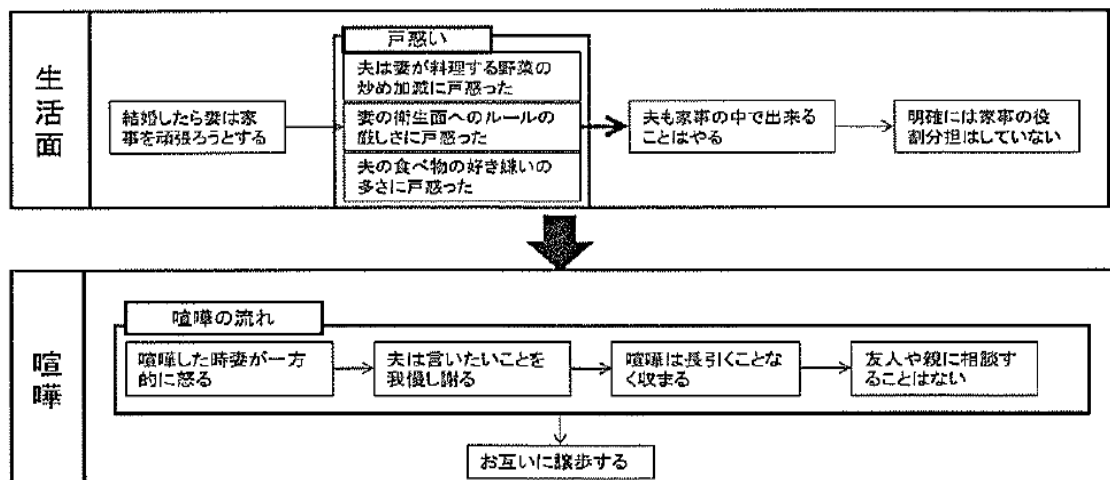


Figure1 新婚期における夫婦関係の形成過程の概念図